

目次

ごあいさつ	03
静岡医療科学専門学校 大学校長 金山 尚裕	
総説	
二足歩行であるヒトの分娩 ～進化,そして今～	04
かば記念病院 産科 成瀬 寛夫	
中性子補足療法 (BNCT) と加速器BNCTシステム開発の現状	12
静岡医療科学専門学校 医学放射線学科 妻木 孝治	
原著	
「やせ」と学生の尿タンパク検出との関連について —医療系専門学校の健康診断より—	24
静岡医療科学専門学校 健康管理委員長 看護学科 守屋 百合子	
呼吸数測定を測定しない理由: 忘れられたバイタルサイン	28
静岡医療科学専門学校 看護学科 濱元 淳子	
看護学生の便秘・朝食が学業成績に与える影響	36
静岡医療科学専門学校 看護学科 水野 正子	
腱板断裂に対する修復術後の装具使用が 肩甲骨位置および脊柱アライメントに及ぼす影響	48
静岡医療科学専門学校 理学療法学科 森島 優	
アクティブシニアの健康意識に関する変化の検討 ～サロン参加者の健康意識の変容に関する質的研究～	52
静岡医療科学専門学校 作業療法学科 大庭 英章	
2価鉄溶液を用いた悪臭の脱臭効果に関する検討	62
静岡医療科学専門学校 医学検査学科 前田 優香 阿井 ひなた 多田 星来	
症例	
つつが虫病の1例	66
十全記念病院 皮膚科 浦野 聖子	
青翔保健科学Journal雑誌投稿規定／青翔保健科学Journal雑誌執筆要項	70
編集後記	76

青翔保健科学ジャーナル第3巻の発行にあたって

静岡医療科学専門学校 学校長
青翔保健科学ジャーナル 編集長

金山 尚裕

我々医療人はよりよい医療を行うために研究に対し高いリテラシー持つ必要があります。そのためには我々自身がリサーチマインドを持つことが大切です。リサーチマインドを持つにはどうしたらよいでしょうか。皆様は日々1人1人の患者さんを診断・治療することに忙殺されていると思いますが、そのような中でも患者さんをよく観察し問題意識を持つことがリサーチマインドとなります。次にその課題を解決するために研究を行うこと、研究成果を論文にすることまで到達すれば自分自身が大きく飛躍できたことを感じます。論文をよく書く研究者はよき教育者であることは私の長年の経験から間違いのない事実です。よき研究者は教科書に記載されていることをわかりやすく伝え、学生や後輩に学習意欲を増すための教育・指導ができます。

静岡医療科学専門学校に学術雑誌「青翔保健科学ジャーナル」第3巻が発行されることになりました。創刊号、第2号では多くの優秀な論文が掲載され本学教官および関連施設医療者の質の高さが示されました。今回は2本の総説と6つの原著論文、1つの症例報告が掲載されています。臨床医学的、基礎医学的な論文、また貴重な症例報告など多彩な内容となっています。本誌は査読制を取っていますのでどの論文も編集委員の査読を経たもので科学的に記載されています。研究を行い論文執筆まで行った先生方に敬意を表するとともに、これを契機にしてさらなる研究の推進を期待します。本雑誌は静岡医療科学専門学校のみならず関連の施設、関連の医療者そしてOBの皆様にも広く開かれています。多くの投稿を期待していますのでよろしくお願いいたします。また最後になりますが、編集委員会の実務の責任者として作業療法学科の小川元大先生と医学検査学科の小笠原篤先生には本号で中心的役割を果たして頂きました。ここに深謝いたします。